

留学生と創る！ 「伝統と革新・京着物文化読本」制作プロジェクト



1 目的・概要

留学生と私たち双方の視点から、京都の地で脈々と受け継がれてきた着物文化の真髄を探求した日本語教材を制作する。また、着物産業が衰退していく社会の中で奮闘する継承者の方の情熱を、読本を通して留学生に感じてもらう。そして、共に京（今日）の着物文化の在り方を考え直し、それを未来に繋げていくことを目指す。

このプロジェクトでは留学生と共にきものイベントを実施し、日本語授業の副教材（読本）を制作日本語授業での試用までを最終目標とし、「京都のきもの」をテーマに、1年間をかけて読本を制作しました。この1年間で5組のゲストスピーカーの皆様、20組の取材先の皆様、そして、同志社大学の留学生の皆さんのご協力を頂き、履修生は様々な視点から「きもの真髄」について探求してきました。履修生・留学生の双方が、まなびを通じて考えることが出来る「きもの真髄」が詰まった1冊を完成させました。



Annual Schedule

2020年	4月	チームビルディング、役職決定		
	5月	ZOOMにて榎木良子先生・小紋屋高田勝 高田啓史さん・西陣まいづる 舞鶴政之さんの講演		
	6月	読本構成決め、公益財団法人せたがや文化財団さんより資料提供、ZOOMにて小林千洋さんの講演		
	7月	読本構成決め、中間報告会		
	8月	京都散策、SNS開設、株式会社ワード様企業訪問		
	9月	取材開始（NPO 法人京ごころ・株式会社本つづれ勝山・株式会社広海・木村信男さん・京都染工所・公益財団法人 京都和装産業振興財団・小紋屋高田勝・蔦屋久兵衛・西陣織会館・野々村あゆみさん・風俗博物館・舞妓シアター・榎木良子先生・吉川染匠株式会社）読本制作開始		
	10月	読本制作（デザイン、校閲）、留学生による日本語チェック、留学生と着付け体験		
	11月	留学生とディスカッション、メンバー間でのフィードバック大会、読本制作		
	12月	模擬授業、読本仮印刷、単語帳制作		
2021年	1月	読本・単語帳印刷、読本・単語帳配布、最終報告会		

2 成果達成度

1年間を通して私たちは「きものの魅力・現状を伝える読本を完成させる」ことができたことが一番の成果だと思います。きものには一言では表すことができない多くの魅力があります。それと同時に、沢山の問題を抱えているという現状があります。これらを、私たちは少しでも多くの留学生の皆さんに伝えたいと考え、この読本を制作しました。

春学期の成果としては2点あります。

1点目は5名のゲストスピーカーの講演によって、きものの魅力・現状について理解を深められたことです。きものは日本が誇るべき素晴らしい伝統産業ではありますが、その魅力や現状は私たち日本人もここで学ぶまで知らなかったことが沢山ありました。

2点目は目的が定められたことです。きものについて理解を深めたいと、どのような読本にしていきたいか、どのように留学生にきものを知ってもらうかを統一し、共通の認識を持って今後活動できるようにしました。目的を決定するまで、1か月以上かかりました。しかし、私たちにとってこの目的は、何か迷ったときに一度立ち止まって戻る原点となりました。コロナ禍で春学期はオンライン開講となり、着物の基礎をインプットすることだけでなく、チームビルディングを通してチームの土台作りができました。

秋学期の成果として、3点あります。まず1点目は、実際にきもの関わられている方の視点を知ることができたことです。担当する章ごとに分かれ、20組の取材先にお話を伺いました。きもの産業の抱える課題や職人さんの情熱を学ばせていただきました。それらを踏まえて、私たちなりに考え、編集やデザインによって更に私たちらしく読本に落とし込むことが出来ました。

2点目は留学生と私たち双方の視点からきものについて考えたことです。きものの着付け体験や、手織り体験を通して、きものについて留学生と共に学習する機会を作りました。体験を通して得た留学生の感想を読本に載せることで、この本が決して作り手の一方的な想いだけを提示することがないよう意識しました。

3点目は、模擬授業を通じて留学生の皆さんにきものの魅力だけでなく、現状を伝えられたことです。より理解してもらうために、きもの着付けの実演や、パワーポイントを使っての説明に加え、ディスカッションを行いました。工夫を凝らし、留学生に分かりやすいように伝えた結果、高い評価を頂くことが出来ました。この授業のおかげで更にきものに興味を持ったと熱く語りかけてくださる留学生もいっしょり、やってよかったと達成感を感じました。



3 プロジェクトを通じて

このプロジェクトを通して「京きもの」の魅力や取り巻く現状について沢山の学びを得てきました。そして、留学生と一緒に体験・交流することで、双方の視点からきものについて考えることが出来たことも大きな一つの成果だと考えます。

春学期はオンラインでの開講となり、画面上でチームビルディングを実施することの難しさや留学生が少ないという問題に直面し、活動が円滑に



進まないという時期もありました。しかし、実際にきものについてお話を伺ったことや、きものに袖を通し、京都の町を散策したことで、私たちは段々ときものに魅了されました。そして、この魅力を留学生に伝えたいという想いが大きくなり、数少ない留学生に積極的に声をかけ、協力を得ました。

読本制作は簡単に出来るものではありませんでした。初めは右も左も分からないまま手探りで制作を始めました。一人一人思い描いているものが違うことや、上手く思いが伝わらず立ち止まることも多かったです。しかし、そのたびに本音で話し合ってきました。

私たちが大切にしていたことは妥協しないことです。誰か一人でも疑問に感じる事があれば、必ず時間をかけて話し合ってきました。だからこそ、こだわりが沢山詰まった、私たちににとって宝物の一冊を完成させることが出来ました。

このような素晴らしい読本ができたのは協力してくださった皆様のおかげでもあります。本当にありがとうございました。

この一年間を乗り越えられた私たちは心身ともに大きく成長できたと思います。活動で得たことに自信を持って、将来に生かしていきたいと思えます。



編集後記

この報告書を書き、改めて私たちは貴重な体験をさせていただいたと感じました。特に、12人全員で一冊の読本を作ることに難しさを実感したこと。そして、今年のテーマである京都のきものについて、取材を快く受け入れてくださり、現場の生の声を伺えたことはこのプロジェクトに所属していたからこそ経験できたと思います。このように貴重な経験ができたのは、沢山の方のお力があったからこそだと強く感じています。この1年間で学んだことを誇りに、これからも多くの経験を積んでいきたいです。プロジェクトにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

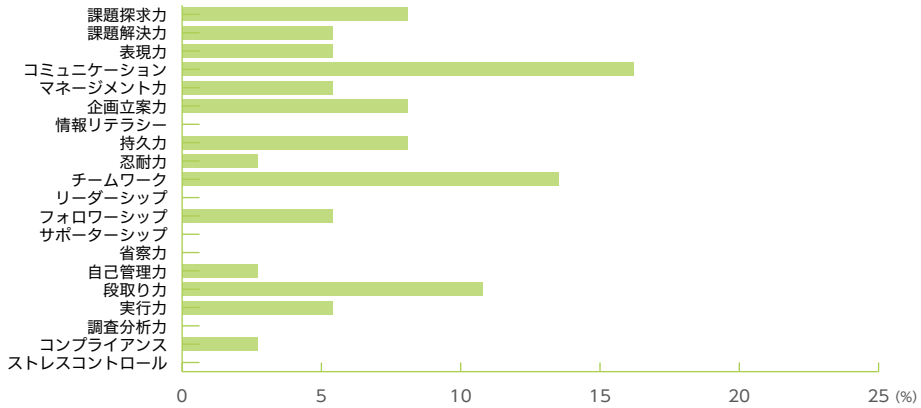
プロジェクトメンバー

吉田 安里(神2) 松田 歩美(文4) 金 熙奎(文4) 田淵 梨乃(文3) 溝端 環太郎(文3) 大賀 怜央(法2)
前田 歩香(法2) 松葉 日菜(法2) 坂本 圭吾(経済4) 橋本 千奈(商3) 鴨井 雄大(商3)
松山 菜々恵(グローバル地域文化2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

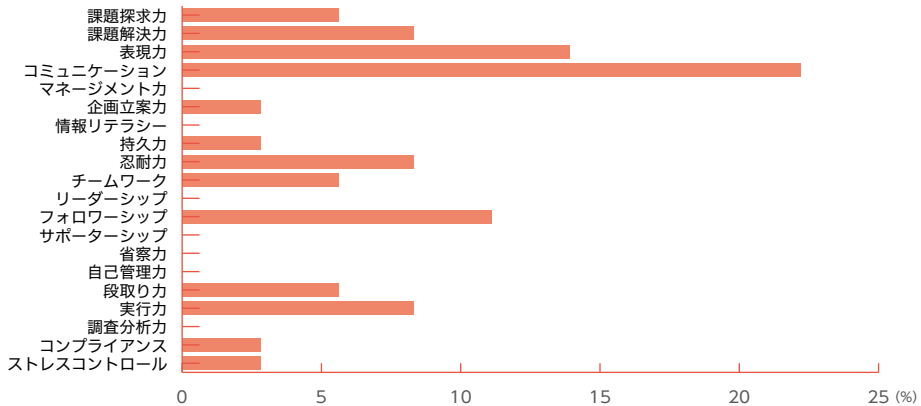
秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

